

「主は私の力」

インターナショナルジャパニーズキリスト教会
冬木友博牧師

23年ぶりに第74回JEMSマウントハーモン修養会に参加して、講師である黒田朔先生を通して、神様からのチャレンジを受けました。今回の修養会では、旧約聖書からモーセの生涯を通して、モーセに働かれた主の力、そして新約聖書からはペテロを通して働かれた主の力を学びました。神様に用いられた人物たちが、「主は私の力」であることをどのように現わしていったのかをみことばの約束の中から、身近な信仰生活にどのように適用していくべきなのかを学んでいきたいと思えます。

まずは、モーセの生涯を見てみると、その誕生と神様の選びに主の力が現わされたことを見ることが出来ます。モーセが体験した主の力を私たちの生活にしっかりと適用することによって、主からの大きな励ましとなり力となることは確実です。モーセはやっぱり特別で私たち凡人とは違うと決めつけてしまわずに、同じ人間として、弱さを覚えて言い訳しているモーセが主の言葉に耳を傾け、新しい一歩を踏み出すことが出来たように、当然私たちにも主の力が必要なのです。それによって、私たちも大胆に進むことができるのです。

私が牧会をしているハワイのインターナショナルジャパニーズキリスト教会は、昨年40周年を迎えることが出来ました。モーセが約束の地にイスラエルの民を導くために荒野を旅したのが40年と言われていいます。その間イスラエルの民は、神様の恵みを何度も体験しながらも神様に逆らって神の声に聞き従わなかったことが多くありました。そのような中で、神様の忍耐とモーセのとりのなしのゆえにイスラエルの民

は、約束の地に入ることが出来ました。私たちの生活の中にも信仰が試されることはたくさんあります。すべてが順調なわけではありません。

私たちは信仰生活の中でも失敗を繰り返していきます。やり直そうともします。その時に「主は私の力」が働きます。神様はいつも共にいて下さるので、日々チャレンジであることに気づかせていただきましょう。

新約聖書の時代に入り、イエスの12弟子の中で私が一番好きなのは、ペテロです。私がどれくらいペテロが好きかという自分の息子の名前のミドルネームをピーターと名付け、岩のように堅い信仰を持ってほしいと願いで「堅」としたほどです。それはともかく、信仰の挫折を通して主の力をもう一度確認することができます。今年のNHKの大河ドラマである「どうする家康」の中で、今までとは違う徳川家康像が紹介されているように思います。私も毎週楽しみに見えています。私たち自身多くの悩みをかかえ、「どうする?」と決断を迫られるような状況に追い込まれることがよくあります。「どうするモーセ?」「どうするペテロ?」と決断が問われ、私自身も「どうする冬木?」と迫られ、「主よ助けて下さい」と主にすがるばかりです。そして、失敗をしながらもイエス様に従う決断に導か



れてきました。その時、主が共におられることを体験させて頂きました。ペテロは、自分の弱さを体験しました。そして、イエス様のまなざしの前に素直に自分の弱さ、罪深さを認めることが出来、涙したのです。ペテロは、自分の弱さを知りながら、イエス様の強さを信じて、従ったのです。パウロも同じだったのではないかと思います。私たちも自分の弱さを誇れるものになりたいと願います。信仰生活の中でまだまだ訓練は続いていきます。決して逃げることなくいつの日かモーセやペテロのように「主は私の力」ですと、声を大にして証出来る者でありたいと願うばかりです。「しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」

Ⅱコリント12:9



第74回 マウントハーモン修養会



黒田 康子
阪南バイブルチャペル

マウントハーモンの1週間は本当に感謝の日々でした。素晴らしく美しい森の中でのキャンプ、小鳥の鳴き声や子どもたちの声。み言葉と祈りでの目覚め、本当に充実したひとときとなりました。楽しい話らいの食事の時、久々に会う友との賛美、笑いに満ちた交わりがありました。初めて出会った方との話の中で、私たちが住んでいる大阪のすぐ近くにお母様が住んでおられるとか、私たちの親しい友と家族のよ

うに親しくしておられたことなどに驚き、嬉しくて、毎日神様の恵みがいっぱいの中におりました。

モーセの働きの中に現わされたと同じ主の力が今、マウントハーモンにいる私のうちにも働いていると確信することができました。その主に向かって「いつでも、どこでも、何でもハイと言う」ことの大切さを教えられました。私は今、大阪に戻りましたが、以前は「今ここに居て良いのか」と迷うこともありましたが、しかし今やここ大阪に居て良いのだという確信が与えられ、うれしくなりました。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」(ロマ8:28、31b)、「わたしの名を住まわせるためにわたしが選んだ場所に連れて来る。」(ネヘミヤ1:9)という

み言葉にあるように、「今いる所」が神様が私たちに選んでくださった場所なのだと信じてことができました。

後何年生かされるか分かりませんが、主に与えられた場所で精一杯生きていきたい、自分の力ではなく、わたしの中に働いてくださる主の力によって生きていきたい、80才過ぎた私を今置かれたところで、主のみ力によってお用い下さいと祈りました。今、マウントハーモンで教えられたことを思い巡らし、これからの生き方を確認することができ、「ああ、今回の修養会に來させて頂いて良かった」とつくづく感謝しました。

スタッフのみなさんの様々なご奉仕のお蔭で、ゆっくりさせて頂き、楽しませていただきました。ほんとうにありがとうございました。又、次はいつこのマウントハーモン修養会に戻れるか分かりませんが、ぜひ、戻ってきたいと願っています。ありがとうございました。



に参加して



ジューディ 樹汀 知子
サンタクララバレー日系キリスト教会

ハレルヤ! 主の御名を賛美します。

今回、初めて全参加で修養会に参加することができました。

何年も前から、「修養会、いいよ～行かない?」と教会の姉妹達から何度も誘われていましたが、主人を家に残して自分だけ行くことを考えると、絶対に無理だと決めつけていました。去年は日帰りで参加させて頂き、とても恵まれたので、今年も日帰りで参加しようと思っていたところ、J姉が、「一緒に泊まりませんか?」と誘ってくださったことがきっかけで、全参加したいという思いが与えられ、主人の了解も得られ、参加することができました。神様が私の心を変えて、参加できるようにしてくださったのだから、この修養会で神様は私に何をしてくださるのだろうか、行く前から楽しみにしていました。

日常の気忙しい喧騒から離れて、朝晩、

聖書のメッセージに耳を傾け、賛美を捧げ、兄弟姉妹との交わりを、美しい自然の中であることができ、心が癒されていくのを感じました。集会に参加するにつれて、日々の生活の中で自分が負っていた重荷、また弱さに悩んでいたことに気付かされました。長い信仰生活で、もっと素晴らしいクリスチャンになっていなければいけないはずだという思いで自分を裁き、自分を恥じ、こんな私は神様の恵みを受けるのに相応しくない、と決めつけてしまっていました。

集会後のスモールグループの中で、同じスモールグループの清水まお先生や姉妹たちにそのことを打ち明け、祈っていただき、アドバイスを頂けたことは、特別に大きな恵みとなりました。次の日の朝、ベンチに座り前日の恵みを振り返りながら、神様の思いよりも自分の思いを優先していたことを悔い改め、なお私の事を諦めず愛し導いてくださる神様の愛を心から感謝し、受け取ることができました。

またある夜、集会を終えて部屋に帰ると、iPodがありませんでした。その日はカフェにiPadを持って行き時間を過ぎていたので、そこで忘れたのかと思い、探してみても見つかりません。集会所へ戻ると、夜も更けていましたが、何人かの先生方と三奈子さんがお話をされていました。すぐに大里先生が、「祈りましょう!」とおっし

やってくださり、その場でお祈りをしてくださいました。そしてふと目を椅子の方にやると、なんとそこにiPadがあるではありませんか! 自分では全くそこに置いた覚えもなかったのですが、無事にiPadが手元に戻ってきました。その事自体も勿論嬉しかったのですが、何よりも先生方がこんな小さな事のためにも、すぐに祈ってくださった事に感動しました。

食事の時間も楽しかったです。大きな丸テーブルで色々な教会の先生方、初めてお会いする兄弟姉妹方と色々な話を伺い交わりながら食事をするのができて良かったです。またスモールグループ毎に黒田先生を囲んでの食事の時間があったことも嬉しかったです。

最後の集会では、ペテロの持っていた網は、ほつれてボロボロになっていたけれども、神様はその網のようにほつれた私をも繕ってください、神様の栄光のために強くして用いてくださると教えていただき、励まされました。木村先生が毎回賛美をリードしてくださいましたが、集会の前の賛美で心が神様へ向けられ、集会の後の賛美で主への応答の時間が持て、教えていただいた恵みを心に刻む良い時間となりました。この修養会を縁の下で支えてくださったスタッフに心から感謝します。

日語部マウントハーモン修養会

JEMS日語部コーディネーター 藤本 三奈子

第74回JEMSマウントハーモン修養会が7月2日から8日まで祝福のうちに持たれました。今年の日語部の講師は大坂から黒田朔牧師をお招きして、「主は私の力」(出エジプト記15章2節)のテーマでメッセージを語って頂きました。黒田先生は2012年に引き続き、2回目の講師をしてくださいましたが、修養会中の月曜日は、長女の清水摂さんがセミナーを、また摂さんのご主人の清水まお牧師(ウインターズバーク長老教会)が夜のメッセージを取り次いで下さり、ご家族で主に仕えることができたことを大変喜んでいらっしゃいました。皆様のお祈りに感謝します。来年、2024年のJEMSマウントハーモン修養会(2024年6月30日-7月6日)は75回目の記念修養会となります。日語部講師として、福野正和牧師(RCI南大阪福音教会)と長沢崇史牧師(カナン・ブレイズ・チャーチ)のお二人をお招きしています。申込み開始は1月頃を予定しています。是非ご参加下さい。



JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org



JEMS - 日本語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

- 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。
- 日本語部の働きのために 毎月 \$ _____ 捧げます。(_____ 月 _____ 年まで)
- 今回 \$ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先はJEMSとお書き頂き、Memo欄にNichigoとご記入下さい。

JEMS P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047 電話: 213-613-0022

※オンライン献金 <https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako> もご利用頂けます。



編集後記

西原 黎子

トレイル歩きで、心温まる時は朝のあいさつである。向こうから歩いてくる人たちと、すれ違い様に「グッドモーニング」と言葉をかまし、互いの目を見つめて、ニコリと微笑みあう。そんな一瞬、心にポット灯がともる。そしてあなたの一日が充たされますようにと心の中で祈る。「微笑み」には「微笑み」が最上の組み合わせだという。マザー・テレサは若い修道女たちに常に「Smile, Smile」と言い続けていたと聞く。それが、「御顔の光をあなたの僕の上に輝かせてください」(詩編119:135)のみ言葉につながるにちがいない。

